観測

北海道

◆泊原発3号機の営業運転再開を許すな！

ムチャクチャな話だ。こんなデタラメを許すわけにはいかない。泊原発3号機の営業運転再開をめぐる動きである。

北海道の泊村（札幌から約七〇キロ）に北海道電力の泊原発がある。1号機は定期検査中で運転停止、2号機は運転中だが八月下旬から定期検査が始まる。問題の3号機は、一月五日から定期検査に入り、三月七日に発電を再開し調整運転を始めた。四か月以上たった今も調整運転を続けているが、実際は一〇〇％出力し売電までしている。

こんなに長く調整運転を続けているのは、三月一一日の福島第一原発事故によって、原子力発電所についての定期検査合格基準を全面的に見直す必要が出たにもかかわらず、新たな基準がつくられなかったからである。

定期検査のため停止している原子炉を何とかして再開させたい経済産業省や原子力安全委員会、原子力安全・保安院は、調整運転が長く続いているのは「法令上問題がある」から、国の最終検査（新たに導入が決まったストレステストではない従来の基準によるもの）を受け、営業運転を再開するよう指導した。北海道電力は、それに従い営業運転再開の方針を決めた。

全くデタラメな話である。3・11前に調整運転に入っていたからという理由だけで、他の定期検査中の原子炉に適用されるストレステストをしないで再開させようというのだから、八百長としかいえない。調整運転を問題にするなら、運転をストップさせ、他の原発と同じ基準でのチェックを行なうべきなのだ。

運転再開には北海道と地元四町村の合意が必要だが、泊原発の三〇キロ圏内に住む人たちの八八％は「泊原発に不安」と考え、六割近くの人が泊原発の「廃止」を求めている（『北海道新聞』七月三日）。北海道知事も国からの回答を待っているところで、まだ合意はしていない。

営業運転再開を何としても止めようと、私たち、ほっかいどうピースネットなどは七月二〇日から札幌市内で毎日街頭宣伝、北海道庁前での座り込み、北海道との交渉、七月二四日のデモなどを行なっている。全国の皆さんからも、北海道へ再開反対のメッセージを送ってください（FAX　011-232-0162）。

（越田清和／ほっかいどうピースネット）

沖縄

◆南西諸島「防衛」&泡瀬埋め立て再開

夏至も過ぎて日照時間が短くなったが、センダン木の好きなクマゼミの鳴き声は、夏真っ盛りをアピールして力強い。上空では米軍の戦闘機F15イーグルが、〝日米同盟の深化〟をアピールする如く飛び回っているが、先頃から自衛隊も米軍仕様に倣って同機を導入している。訓練は対領空侵犯に対応するものから戦闘機に対する戦闘訓練まで行われているそうだが、七月初めに空自那覇基地所属の一機が東シナ海へ墜落し、操縦士の行方は未だわからない。原因が特定されないまま二週間後の訓練再開を決めたことに対して、那覇市長や伊平屋村長は納得できないとしながらも中止までは求めていない。基地司令も任務の重要性は理解されているとしている。対中国防意識が煽られ、米軍からの要求にも応えなければならない緊張関係の中で、自衛隊員たちにさらにプレッシャーがかかってはいまいか？

先島を巡る防衛については七月中旬に民主党沖縄協議会のメンバーが訪れて首長たちとの意見交換会の中で、尖閣諸島への上陸に拘る石垣市長に対して「我が国の領土だが外交問題になっており注意深く見ながら要求に応えて行きたい」と答えている。また与那国町の懇談会では、尖閣問題は自衛隊の配備ではなく海上保安庁の充実で対応して欲しいとする島民に、「緊張が北から南に移っており空白地帯の南西諸島に自衛隊の配備がなされるべき。相手が軍であれば自衛隊でないと対応できない」として不安を一層煽っている。

辺野古や高江での手詰まり感からか、国・県・沖縄市の三位一体となった「泡瀬沖合埋め立て事業」変更計画に、身内の県港湾課がゴーサインを出したため九月中旬にも工事が再開されようとしている。埋め立て面積を半分にしたり観光客誘致の経済的予測を八割に修正するなど小手先の変更で乗り切ろうとの魂胆がミエミエ。〇九年の高裁判決で工事を中断させてきた「泡瀬干潟を守る連絡会」は再度、公金支出差止めを求めて訴えを起こした。（島尻まーじ）